

まえがき

本大会も、第 18 回目となりました。佐賀、福岡、長崎の 3 県から多数の小学生、引率の先生方と保護者の方々にご参加いただきました。また、参観者も多く、運営スタッフは地域の学校の先生方、佐賀大学の学生も合わせて約 30 名でした。多くの方々からご参加とご支援をいただいたことに、心から感謝申し上げます。

今大会においても、食と農業に論題を求めました。多くの社会的問題が溢れていますが、やはり食糧問題は大きいし、これからは深刻な問題になってくることが予想できます。また、子どもたちにとっても、身近で関心の深い問題でもあります。

近年では、日本の T P P (Trans Pacific Partnership) への参加についての議論が高まっています。与野党の国会議員のなかでも賛否両論が交わされていたし、今回の衆議院議員選挙の争点にもなっています。また、九州地区の農業生産のポテンシャルは高く、経済的な視点からも、今後の取り組み方によれば発展が大いに期待できるとの指摘もあります。このような状況において、食料問題について、わたしたちも真剣に向き合うべきだと考えます。

そもそも、農業に関する問題は生命と食の問題であるとともに、環境や伝統・文化、技術・産業の問題でもあるのです。改めて述べるまでもなく、総合的な問題なのです。さらには、世界的に見ても食料問題は深刻になりつつあるようです。したがって、これからの社会のあり方を左右する極めて重要な問題の 1 つであることは間違いないと言えます。

さて、本大会に参加した多くの小学生が熱い議論を展開したことは、言うまでもありません。互いに議論を交わすなかで、食生活を視点に親子のコミュニケーションや絆、健康等について問い直すようにディベートは拡大していきました。このようなところに、大きな成果が認められます。

最後になりましたが、本大会をご後援いただいた佐賀県教育委員会と佐賀市教育委員会、ご協賛いただいた J A 佐賀中央会、全教研 (株) の方々には、厚いご支援をいただきました。心から、感謝申し上げます。

平成 24 年 12 月 10 日

第 18 回九州地区小学生ディベート大会実行委員会
佐長 健司 (佐賀大学)

目 次

まえがき	1
1 試合結果	3
(1) 中学年の部・予選試合の結果	
(2) 高学年の部・予選試合の結果	
(3) 中学年の部・決勝試合の結果	
(4) 高学年の部・決勝試合の結果	
2 高学年の部・決勝試合の記録と講評	5
3 参加者の感想	11
4 大会要項	12
5 プログラム	15
6 モデル・ディベート	19

1 試合結果

(1) 中学年の部

	事 項 学校名	成績評価の得点			勝敗	成績得点	勝利数	予選 順位
		試合	チーム	合計				
A	田代 J A P A N	4	3	7	○	14	2	1
		4	3	7	○			
B	チーム MINAMI	4	0	4	×	8	0	5
		3	1	4	×			
C	BEST OF CHILDREN	3	2	5	○	10	1	3
		4	1	5	×			
D	Y・T・I 最高 ディベーターズ	4	3	7	○	13	2	2
		4	2	6	○			
E	凜佑伊彪	4	0	4	×	9	1	4
		3	2	5	○			
F	3 A	3	1	4	×	8	0	5
		4	0	4	×			

(2) 高学年の部

	事 項 学校名	成績評価の得点			勝敗	成績得点	勝利数	予選 順位
		試合	チーム	合計				
A	春日北 ディベーターズ	4	1	5	×	10	0	7
		4	1	5	×			
B	チーム GPS	4	2	6	○	11	1	4
		4	1	5	×			
C	HMK 4	4	2	6	○	11	1	4
		4	1	5	×			
D	Nice my friends	4	2	6	○	14	2	1
		5	3	8	○			
E	M2	5	0	5	×	10	0	6
		4	1	5	×			
F	MRH	4	2	6	○	14	2	1
		5	3	8	○			
G	FBI	5	0	5	×	11	1	3
		4	2	6	○			

(3) 中学年の部・決勝試合の結果

立場	チーム名 (学校名)	成績評価			勝敗
		試合評価	チーム評価	得点合計	
賛成側	Y・T・I 最高 ディベーターズ (福岡市立和白 東小学校)	4	1	5	×
反対側	田代 J A P A N (鳥栖市立田代 小学校)	4	4	8	○

(4) 高学年の部・決勝試合の結果

立場	チーム名 (学校名)	成績評価			勝敗
		試合評価	チーム評価	得点合計	
賛成側	Nice my friends	5	5	10	○
反対側	MRH	5	0	5	×

決勝試合の記録と講評

論題 「日本の小学校には給食に代えてお弁当にすべきであるか。賛成か。反対か。」

賛成側 Nice my friends 反対側 MRH

1 賛成側立論

わたしたちは、この論題に賛成します。メリットは2つあります。1つ目のメリットは、残飯が減るということです。理由は2つあります。

1つ目は、量が調節でき、残飯が減るからです。論題のようにすると自分や親がお弁当を作ることになります。そうすると自分が作ったり、自分のことをわかっている親が作ったりするので、食べられる量をお弁当に入れることができます。親は長年子ども達を育ててきているので、子どもの食べられる量がわかります。なので、残すことがなくなり、残飯が減ります。相手側は給食でも減らせる、というかもしれません。しかし、それは自分の食べる量が減るだけで、クラスの食管の中に残ってしまうことは変わりありません。つまり、残飯が減るとは言えません。

2つ目は、好きなおかずを中心に作れるからです。給食だと、どうしても嫌いなメニューが出ることもあるでしょう。しかし、お弁当だと好きなおかずで作ることができます。相手側は親が子どものことを考えて嫌いなものを入れ、残す、というかもしれませんが、ピーマンが苦手なら、微塵切りにしてハンバーグに入れる等、工夫をすれば残さず食べることができます。

2つ目のメリットは、家族とコミュニケーションが取れる機会が増えるということです。

1つ目の理由は、お弁当について会話が増えるということです。論題のようにすると、自分や親がお弁当を作ることになります。そうすると、食べる時間に友達とお弁当について話すだけでなく、帰ってから親に「おいしかったよ」というように会話が増えます。今、親子での会話が少なくなっている事実があるので、このメリットはとても大切です。

2つ目の理由は、手伝いをするからです。親がたいへんなので、お弁当を自分で作ったり、手伝いをすることがあります。初めから1人でお弁当が作れるわけではないので、作り方を話したり、いっしょに作ったりすることで、家族との会話が増え、コミュニケーションがとれる機会が増え、家族との絆が深まります。

これで、賛成側の立論を終わります。

2 反対側立論

論題「日本の小学校では給食に代えてお弁当にするべきである。賛成か、反対か。」について、反対の立場で意見を発表します。

論題のようにすると、デメリットがあります。それは2つあります。

1つ目のデメリットは、お家の人の負担が増えてしまうことです。デメリットだと考える理由を言います。冷凍食品でもバランスをとろうとすると一苦労なので、子どもの好き嫌いに任せてしまう傾向があります。わたしの母もそうなのですが、朝早く起き、お弁当の用意をします。子ども数が多ければ、なおさら負担となり、冷凍食品に頼らざるを得ない状況となります。すると栄養バランスを考えるのも一苦労です。

二つ目のデメリットは、栄養が偏ってしまうということです。デメリットだと考える理由を言います。まず、母親が栄養士であることは、あまりありません。よって、栄養万全のお弁当を作ることは難しくなります。それに、私の母が「給食は栄養バランスが取れている」と話をしていました。また、子どもの好き嫌いによって栄養が偏り、バランスが崩れます。

したがって、論題について反対します。これで反対の立場の意見発表を終わります。

審判による解説（1回目）

はい、では解説をします。

賛成側の意見発表は、メリットが2つありました。1つ目は残飯が減るということで、お弁当だと量の調節ができる、親はよく子供のことをわかっている、というものでした。給食でも減らせるというふうに相手側は言うかもしれませんが、それは難しいという理由を挙げていました。

2つ目の理由が、好きなおかずでお弁当だと作れます、ということでした。メリットの2つ目は家族とのコミュニケーションをとれる、増えるということでした。その理由として一つ目が、お弁当のほうが友だちとの会話だけでなく、家族ともお弁当のことについて話しができますということです。2番目の理由が、お弁当を作る場合、子どもが手伝いをして親と話したり、家族との絆が増える、絆が深まるということでした。

メリットの1つ目は、残飯は本当に減るのかどうか、給食とお弁当の比較を反論出来ればいいかなと思います。メリットの2つ目は、コミュニケーションのことですけど、給食とお弁当でコミュニケーションの度合いがどうなるのか、ということです。

反対側の意見発表は、デメリットが2つ。1つ目は家の人の負担が増えるということで、冷凍食品等で栄養のバランスをとるのが難しい朝早く起きたり、冷凍食品でつくるのも一苦労だ、ということでした。

デメリットの2つ目は、栄養が偏ってしまう。母親が栄養士であることはほとんどないのでバランスのいいおかずを作るのは難しいということで、負担がどれくらい増えるのかということと、栄養が本当に偏ってしまうだろうか、ということをも反論していけばいいと思います。

3 反対側第1反論

これから反対の立場で第1反論を行います。賛成のチームは意見発表では、残飯が減る

と言っています。しかし、それは正しいとは言えません。理由を言います。残飯を減らすというのは給食でも出来るからです。例えば、私達のクラスではおかずがすべて無くなるまで食器を返してはいけないということになっているので、残飯は減ります。

もう1つ、賛成のチームは意見発表では家族とのコミュニケーションが増えると言っています。しかし、それは正しいとは言えません。理由を言います。家族とのコミュニケーションは、家の人がとても忙しく、一人で過ごす時間がとても多い人はそもそもコミュニケーションが出来ません。それに、給食でもコミュニケーションは話題としてできるので、給食でも大丈夫です。

したがって、賛成側立場の人の意見発表は正しくありません。

4 賛成側第一反論

今から賛成側の第1反論を始めます。相手側は負担が増えると言いました。しかし、それは認められません。理由は1つあります。冷凍食品に頼らざるを得ないのは、確かにそうかもしれません。しかし、夜ご飯のあまりを回せばいいのです。なので、負担は増えません。

相手側は、栄養が偏ると言いました。しかし、それは認められません。理由は3つあります。母が栄養士でなくても、毎日の栄養は偏っていません。なぜかというと、ごはんの栄養バランスがいいから、わたしたちは今、健康でいられます。また、相手側は子どもの好き嫌いがあると言いましたが、ピーマンは嫌いなら微塵切りにしてハンバーグ等に入れればいいと言います。

2つ目は、母が栄養士でなくても 簡単な赤・緑・黄色の材料などは分かるのでそれに合わせればいいです。

3つ目は、それは親も小学校の時に栄養のことについて勉強しているからです。私達も今、家庭科の学習で栄養のことについて勉強をしています。例えば、五大栄養素などの勉強をしています。なので、親も栄養のバランスは分かっているのです、栄養が偏るといふことは認められません。

これで、賛成側の第1反論を終わります。

審判による解説 (2回目)

反対側の第1反論、2つ反論がありました。メリット1、残飯が減ることについて、給食でも残飯は減らせます、自分たちの学校では全部食べてから食器を集める、食器を返すことをしているので残飯が増えません、という反論でした。それからメリット2への反論は、コミュニケーションが増える、ということなんですが、一人で過ごして、コミュニケーションの時間がない人もいます。これは給食でもお弁当でもコミュニケーションはとれますという反論でした。

残飯が減るのがどちらが多いかとか反論して貰えればいいかな、と思います。それから、

お弁当にすることによってコミュニケーションが増えるかどうかということなんですけど、いろんな観点から絆が深まるとか意見発表でもあったので、そのあたりのことに反論して行けばいいかなと思います。

賛成側の第1反論、相手のデメリットに対して、家の人の負担が増える。冷凍食品なんかでバランス考えるのは一苦勞である。ということで、冷凍食品に頼らざるを得ないですけども、前日の夕食とかのおかずを使えばいいだろうということです。

栄養が偏ってしまう、母親が栄養士ではないということへの反論ですけども、栄養士でない人でも、栄養の基本的な知識は小学校でも勉強したことがあるだろうということです。好き嫌いについてもいろんな工夫ができますということなので、栄養の知識というのが一般の人がどれくらいあるとか、それから負担が本当に増えるのかどうか、ということを反論してください。

5 反対側第二反論

これから、反対の立場で第2反論を行います。賛成のチームは第1反論では、夜ご飯があればお弁当は大丈夫と言っています。しかし、それは正しいとは言えません。理由を言います。夜ご飯の残飯を詰めたとしても、全部詰められるわけではないので、冷凍食品を使わざるを得ない状況にもなります。そして、学校では栄養士さんがゴーヤなどの苦い、子どもたちが嫌がるような食べ物をキュウリなどの同色と同化させ、味を消したりしているので、子どもたちが知らないところで栄養を摂らせてくれたりします。

また、反対のチームは第一反論では栄養士でなくとも、栄養の基本は小学校でも習っているので大丈夫と言っています。しかし、それは正しいとは言えません。理由を言います。それが今の基本と一緒にどうか分からないし、それに比べたら栄養士は本格的な栄養バランスの取れた食事を出してくれるので、学校の給食のほうが栄養バランスがとれていると思いました。したがって、賛成の立場の意見は正しくありません。

審判のみなさんは、反対してください。

6 賛成側第二反論

今から、賛成側の第2反論を始めます。相手側は残飯を減らすというのは給食でもできると言いました。しかし、それは認められません。理由は1つあります。論題には「日本の小学校は」と書いてあるので、相手側が言った「食管の中で残っていたら返してはいけない」と言っていたこと、これを全国で出来るでしょうか。先生も違うから教室のルールも違います。

相手側は家の方が忙しく、コミュニケーションは給食でも大丈夫と言っていました。しかし、それは認められません。理由は3つあります。1つ目は家の方が忙しくても、意見発表でも言っていたように作り方などを聞くのでコミュニケーションをする機会が増えます。また給食での会話は「今日のメニューはなんだった」などだけど、弁当にすると、な

んとかさんがこんな作っていたから私の弁当も作って、または作りたい、などという会話があります。2つ目は、家の人が忙しくてもコミュニケーションはちゃんととれます。実際に私の母は仕事などで忙しいです。しかし、母は少しの合間の時間をとって会話ができています。たとえば、夕ご飯作る時、家事をしているとき、弁当等の会話はできています。3つ目は、手紙などでコミュニケーションをとればいからです。確かに家の人とは話せないかもしれないけど、たとえば手紙等でテーブルの上とかに置いとけばコミュニケーションは取れます。これで賛成側の第二反論を終わります。

講評 池田 賢治 (福岡工業大学、全国教室ディベート連盟九州副支部長)

ここでは講評するのですが、最終的な結果は閉会式の時にしようということで、試合評価の点数は述べます。あと、最終的な合計点数、どっちが勝ったか、というのはだいたい話を聴くと分かるだろうということなのですが、実に難しい話し方をしなければならないのですが、最終的な結果の発表は閉会式です。試合評価、5人全員5点ということなので、5点です。

決勝戦なので素晴らしいディベートでした。もっと素晴らしくするために、本当に毎年のことながらいつも言うんですけど、小学生でこれだけ限られた時間で、相手の言うことを聞いて、それから意見をまとめて、相手の言ったことにちゃんと反論をして、それが最後までできているという、いつも言うことですが、私は小学校の時を振り返ると考えられない、そんな状況です。素晴らしい経験と、それから力がついていっているな、という気がしました。コミュニケーションというのがすごく大切で、わかりやすく伝えるということが大切で、話し方は本当にわかりやすく言葉が通っていました。

もう1つは、お互い試合をしているので、お互いを尊重して、お互いの言っていることをよく聞くことです。それから会場で聴いている人も同じことですので、前でいっしょけんめいにディベートをやっています。人が話しています、きちんと聞きましょう。それができなければ、ディベートをやってもなんの意味もありません。きちんと話を聞く、それを全体でその雰囲気があれば非常にいい試合に、いい大会になります。

それとテクニク的なことなのですが、反論の時に、反論することだけ紙に書いて持ってくるということですね。そういうやり方でもいいのですが、フローシートという全体の流れを書いたものを、反論するときも見ながら、それから作戦タイムの時にも、それを見ながらみんなで話し合う、というのが作戦タイムなのです。だから、それをやったほうが、反論もとてもいいものになると思うんですね。書いた反論だけを見ていると全体の流れがわからなくて相手の言ったこと、それから議論の流れがどうなっているのか、どこにきちんと反論できているのか、反論できてないのかとか、というのを確認できるようになればいいかなと思います。

では、試合の内容ですけれども、メリットが、残飯が出るということと、それからコミュニケーションが増えるということでした。給食でも可能だよという事なのですが、これ

は第2反論の所で論題がどんな趣旨なのか、というのを提示してくれました。一部の学校だけじゃないですか。すべてルールが違うんじゃないですか。「全国でできる」ということが説明されてないですね、ということでした。これもいい反論でしたね。

それからコミュニケーションについては一人で過ごす人もいる、給食でもできるだろうことなんですけど、3つ理由を挙げて、忙しくてもコミュニケーションは自分の家でも可能だとか、というような反論がありました。それから、会ってお話することだけがコミュニケーションではないというような反論もできていました。短い時間で3つ、反論の理由があります。というのは結構難しくていいですよ。短い時間に考えるのも…。

では反対側、デメリットが2つあります。ということで、家の人の負担が増える、ここはね、負担が増えると聞いたときに、なるほど、これはいい議論だなと思うんですけど、なんか冷凍食品にこだわってましたね。冷凍食品って負担を減らすためにあるのかなとか思ったり、いろいろなことを、栄養のバランスを考えたりということなんですけど、もう少し負担が増えるということのもうちょっと深刻な、時間がないとか働いている親が多いとか、そんなことを取り上げたほうがよかったです。経済的なものもあるかもしれないし、負担という事を挙げた時に何が一番負担なのかということが、考えられればよかったかなと思います。

冷凍食品の議論もそれぞれずっと反論が続いていたんですけど、第2反論のところは、夕食を使うとかってということなんですけど、残り物を使うことで可能だろう、時間が減るだろうということなんですけど、さっき言ったように、こんなところが負担が大きいんだよ、ということが最終時に言えていれば、時間がないんだよ、経済的にも大変なんだよ、というようなことが言えていれば、いい議論が最後まで続いたかなと思います。

栄養が偏ってしまう、母親が栄養士であることは少ないでしょう。確かに少ないでしょう、ということ、ここは第1反論の所は、これは理由を3つ挙げていました。けれども、小学校で自分たちも、今、わたしもすごく勉強させていただいて、なるほど勉強しているんだ、こんな知識が必要なんだ、というのがわかりましたけれど、基本的な知識であれば対応できるのではないだろうかというような議論というのはかなり説得力があったかなということです。確かに、栄養士に比べれば知識や経験は少ないかもしれないけれども、勉強してきたこと、ふだんの知識というのは基本的には栄養のバランスが考えられるのではないかなというような反論が残ったかな、というところです。

決勝戦にふさわしいということで、5人の審判が気持ちよく、試合の評価が全員5点ということで、ここまで戦って来て一日の中でもどんどんと成長をしてきてくれたらと思うんですけど、こんな人前で堂々と発表が出来て議論ができていたということは、ほんとうに素晴らしいことです。

最後ですが、両方のチームに尊敬の念をお伝えして、講評とします。ありがとうございました。

参観者の感想

大会前は、小学生をディベーターとすると、ディベーター自身ではなく、引率の先生の議論になってしまうこともあるのではないかと思っていました。また、そうしたチームが高い評価を得て、小学生自身が考えた議論では勝てないのではないかと思っていました。

昼休み、実際にディベートの準備をしているところを、何チームか見学しました。特に、高学年のチームでは先生方の意見を取り入れている場合もありましたが、小学生ディベーターたちも活発に意見を出していました。このことが、とても印象的でした。各チームとも立論のワークシートを活用したり、「相手の2倍の大きさの声で話す」という目標を立てたりするなど、とても意欲的でした。内容では食品添加物の発がん性に言及するチームもあり、このような問題について考える機会となり、この大会の意義は大きいと感じました。

試合も観させていただきました。論題が当日に発表となっていて、短期間で準備しなければなりません。それにもかかわらず、かなりよくまとまった意見発表、反論、再反論が行われていて、驚きました。反論では、ディベーター自身の経験にもとづく独自の内容が多く、とてもユニークなものもありました。高学年の部では、同じチームの試合を予選と決勝の2試合を観戦し、試合を重ねると意見が深まっていることが確認できました。

今日のことは、わたしたち大学生にとっても、とてもいい経験となりました。小学生ディベーターに負けないように、日常生活でも議論に積極的になりたいです。

佐賀大学医学部学生 M. M

小学生がディベートをするのは、難しいのではないかと思っていました。しかし、参観すると、実際にディベートができていたので、驚きました。準備時間には、小学生が先生といっしょに話し合いながら、スピーチの原稿をつくっていることもありました。先生が示した問題や提案を受けて、小学生がいっしょうけんめいに考えている姿が印象的でした。準備時間も最後になると、スピーチの練習や重要な言葉を確認するなど、それぞれのチームで異なるようでした。

試合になると、中学年の部では意見発表のときに、1つの内容を繰り返すようなことがみられました。作戦タイムでは、1人で準備していることもありました。一方では、発表時間中に、メモをとって次の発表の準備をしている場合もあり、こちらの方が効果的なようにみえました。

高学年の部では2試合みなのですが、さすがにスピーチは上手でした。試合評価も5点満点した。ただし、相手の意見にもっとかみ合うなら、さらに議論が深まると思いました。審判の解説では、試合ごとに成長がみられるという言葉に感動しました。

小学生であっても、意見をつくり出すすごさが感じられました。とても充実したディベート大会だったと思います。

佐賀大学経済学部学生 R. I

第 18 回九州地区小学生ディベート大会の開催要領

全国教室ディベート連盟九州支部

支部長 佐長 健司（佐賀大学文化教育学部教授）

九州地区の小学生を対象としたディベート大会を下記のとおり開催します。本大会は、勝敗よりも、対戦する両チームがよりよい議論をつくっていくことを重視しています。つきましては、小学生の皆さん、コミュニケーション教育に関心のある方々に多数ご参加いただけますよう、ご案内申し上げます。

記

1 大会組織

主催：全国教室ディベート連盟九州支部 日本パブリックディベート協会

後援：佐賀県教育委員会 佐賀市教育委員会（

協賛：JA 佐賀 株式会社全教研

2 目的

ディベートについての学習成果を発表する機会となる大会を開催し、成績が優秀な個人、及びチームを表彰します。また、コミュニケーション教育に関心のある方々の情報交換の場とします。

3 日時 平成24年12月1日（土）

4 会場 佐賀県JA会館（佐賀市栄町2番1号）

※佐賀駅より徒歩3分 自家用車で来られる方は、近くの駐車場をご利用ください。

5 対象 小学校中学年（3，4年生）及び高学年（5，6年生）の児童（引率者を必要とする。）

6 日程

10:00	10:20	12:00	12:50	15:20	15:30	16:10	16:30
受付	開会	○モデルディベート ○準備	休憩	○ディベート（予選） 中学年の部 高学年の部	成績発表	○ディベート 決勝試合	表彰閉会

7 参加について

(1) **事前の準備は不要です。当日、大会スタッフの支援によって準備を行いますので、初めての児童でも参加が可能です。筆記用具、昼食だけご持参ください。**

(2) 論題は当日発表いたします。論題は、食育、あるいは農業に関するものとなります。

(3) 参加及び参観ともに無料です。

(4) 申し込み・問い合わせ先

別紙「参加申込書」に必要事項を記入し、11月17日（金）までにご送付ください。FAX、メールでも結構です。

〒840-0202 佐賀市大和町大字久池井1777-1
佐賀市立春日北小学校内 田本 正一（たもと しょういち）
Tel 090-2962-4085
Mail air-station.sf@b2.bunbun.ne.jp

九州地区小学生ディベート大会ルール

1 論題

本大会は、食べ物あるいは農業に関することで、「みんなで考えなければならないこと」を論題とします。論題は大会当日に発表します。

2 フォーマット

ディベートの流れは右のようにします。なお、内容を充実させるために、審判による解説が行われます。

3 チーム

3人から6人でチームをつくります。意見発表、第1反論、第2反論のパートに分かれ試合を行います。

※1人や2人での参加の場合は当日他チームとの合同になる場合があります。また参加多数の場合は、チーム数調整にご協力願う場合もあります。

※第1反論、第2反論は2人まで担当可能です。

①賛成側意見発表（3分）
②反対側意見発表（3分）
審判による解説（2分）
③作戦タイム（3分）
④反対側第1反論（2分）
⑤賛成側第1反論（2分）
審判による解説（2分）
⑥作戦タイム（3分）
⑦反対側第2反論（2分）
⑧賛成側第2反論（2分）
⑨審判協議（5分）
⑩講評（6分）
合計 35分間

4 進行

司会者の進行によって発言を行い、決められた時間内に述べます。

5 意見発表

(1) 賛成側は、示された論題を実行されることによって発生するメリットを述べます。反対側では発生するデメリットを述べます。メリット、あるいはデメリットは2つまでとします。

(2) 次の順序で述べます。

- ① 賛成・反対の立場
- ② メリット、デメリットのラベル
- ③ メリット、デメリットが発生する根拠
- ④ メリット、デメリットが発生するという結論

「ラベル」とは、メリット・デメリットの内容をまとめた短い言葉のことです。

「根拠」とは、誰もが経験するような事実や筋道を立てた説明のことです。

6 第1反論

(1) 反対側は、賛成側意見発表に反対し、メリット発生が認められないことを述べます。

賛成側は、反対側意見発表に反対し、デメリット発生が認められないことを述べます。

(2) 次の順序で述べます。

- ① 相手の意見発表の内容
- ② 相手のメリット、あるいはデメリットが発生することが認められないこと。
- ③ 相手のメリット、あるいはデメリットが発生することの根拠が不十分であること
- ④ 相手のメリット、あるいはデメリットが発生しないという結論

7 第2反論

- (1) 反対側は、賛成側第1反論に反対し、意見発表で述べたデメリットが発生することを述べます。賛成側は、反対側第1反論に反対し、意見発表で述べたメリットが発生することを述べます。
- (2) 次の順序で述べます。
 - ① 相手の第1反論の内容
 - ② 相手の第1反論の内容に反対すること
 - ③ 相手の第1反論の根拠が不十分であること
 - ④ 自分たちのメリット、あるいはデメリットが発生するという結論

8 コミュニケーションの責任

- (1) 発言の速さ、声の大きさや発音に十分注意して、わかりやすく述べます。
- (2) ナンバリング、ラベリングをしながら意見発表や反論を述べなければなりません。「ナンバリング」とは、述べる内容の数と順序を示すことです。「○点述べます。第1に～。第2に～」という具合に述べることです。「ラベリング」とは、述べる内容に見出しをつけることです。

9 試合の評価と順位決定方法について

- (1) 試合評価及びチーム評価の判定は、複数の審判が中立の立場から行います。
- (2) 試合評価とは両チームが協力してどの程度議論を深めたかどうかを評価します。チーム評価とは、どちらの議論が優位であったかを評価します。また、予選試合の中で最も優れた試合をベストゲームとします。
- (3) 本大会の順位は、試合評価とチーム評価を合計した成績得点によって順位を決定します。順位決定については、成績得点によって決定します。成績得点と同点の場合は試合評価の合計によって決定します。さらに同点の場合は、勝敗数で決定します。さらに同点の場合は、抽選で決定します。

10 その他

- (1) ディベートでは、論題に示されたことが実行できないという反論はできません。
- (2) 試合中は、作戦タイムにおいてチーム内で相談することができます。ただし、発言中の選手に対して、他の選手が口頭でアドバイスをすることはできません。
- (3) 試合中、選手は選手以外からのアドバイスを受けることはできません。

第18回九州地区ディベート大会 参加申込書

学校名			
チーム名			
ふりがな 児童氏名 (学年)		()年	()年
		()年	()年
		()年	()年
引率者	氏名		
	住所		
		TEL	

第 18 回

九州地区小学生ディベート大会プログラム



- 日 時 平成24年12月1日(土)
10:00~16:30
- 会 場 佐賀県JA会館
- 主 催 全国教室ディベート連盟九州支部
日本パブリックディベート協会
- 後 援 佐賀県教育委員会 佐賀市教育委員会

協賛 JAグループ佐賀 全教研

◎日程

- 10:00~10:20 受付
- 10:20~10:30 開会式、論題発表
- 10:30~11:10 モデルディベート、解説、準備時間
- 11:10~12:40 準備時間・昼休み
- 12:40~15:10 試合

12:40~13:30	第1試合
13:30~14:20	第2試合
14:20~15:10	第3試合
15:10~15:20	成績発表・決勝戦準備
- 15:20~16:00 決勝（高学年の部のみ）
- 16:00~16:20 表彰・閉会式

◎ディベートの進め方

・賛成側意見発表	(3分)
・反対側意見発表	(3分)
解説	(3分)
作戦タイム	(3分)
・反対側第一反論	(2分)
・賛成側第一反論	(2分)
解説	(3分)
作戦タイム	(3分)
・反対側第二反論	(2分)
・賛成側第二反論	(2分)
合計	26分

◎表彰

- 1 表彰は高学年の部（優勝、準優勝、ベストゲーム賞）、中学年の部（優勝、準優勝）です。表彰は閉会時に行います。
- 2 ベストゲーム賞は、もっとも優れたディベートを行った試合を表彰します。試合を行った両方のチームが表彰の対象となります。

◎諸注意

各チームとも、試合開始5分前には場内で待機しておいて下さい。

◎試合

<中学年の部>

第1試合 12:40~13:30

会場		賛成	反対
2F研修A	①	A	B
2F研修B	②	C	D

第2試合 13:30~14:20

会場		賛成	反対

2 F 研修A	①	E	F
2 F 研修B	②	B	C

第3試合 14:20~15:10

会場		賛成	反対
2 F 研修A	①	D	E
2 F 研修B	②	F	A

<高学年の部>

第1試合 12:40~13:30

会場		賛成	反対
7 F 第2会議室	①	A	B
3 F 第1会議室	②	C	D
3 F 第2会議室	③	E	F

第2試合 13:30~14:20

会場		賛成	反対
7 F 第2会議室	①	G	A
3 F 第1会議室	②	B	C
3 F 第2会議室	③	D	E

第3試合 14:20~15:10

会場		賛成	反対
7 F 第2会議室	①	F	G

会場の(本)とは本館、(別)とは別館を意味します。本館3Fと別館4Fは連絡通路と
なっています。移動の際は、そこをお使いください。

◎参加者名

- 中学年の部

「田代JAPAN」 長誉之音 能塚杏海
「チームMinami」 真田銀二 田川虎汰 平田一翔 深堀語
「BEST OF CHILDREN」 大津響 青柳麻衣子 杉原沙織 川久保隆正
「Y・T・I 最高ディベーターズ」 高木由奈 山方朋佳 一宮崇仁
「凜佑伊彪」 江口凜汰 川原佑人 白谷伊玖磨 吉田彪夏
「3A」 本村葵 山下葵 江島明李

○ 高学年の部

「春日北ディベーターズ」 野田真由 原菜月 弓削愛莉
「チームGPS」 山本修平 加茂翼 伊藤大弥 谷口翔
「HMK4」 栗本拓 多貝俊佑 中村拳史郎 宮崎幸弥
「Nice my friends」 麻生麗奈 高見萌々佳 又野可愛 川久保美陽
「M2」 宮原来未 宮原ひとみ
「MRH」 緒方真智 白谷玲奈 谷川晴香
「FBI」 北村優字人 今村蒼太 詫間駿介 山口大貴 中島竜太郎

第18回九州地区小学生ディベート大会実行委員会

実行委員長	佐長 健司（佐賀大学、全国教室ディベート連盟九州支部長）
実行副委員長	池田 賢治（福岡工業大学、全国教室ディベート連盟九州副支部長）
事務局 長	田本 正一（佐賀市立春日北小学校）
事務局	田本 嘉昭（みやき町立北茂安小学校）
審判部	坂井 満（佐賀市立神野小学校）
	松枝 隆（東部教育事務所）
	野田 秀樹（佐賀大学文化教育学部附属中学校）
	原 直樹（佐賀市立城西中学校）
	井手 秀成（佐賀県立唐津南高等学校）
	松尾 秀美（佐賀市立春日北小学校）
	千々岩浩幸（佐賀市立春日北小学校）
	大久保聡子（小城市役所）
	福田 栄吉（小城市立晴田小学校）
	原田亮一（みやき町立北茂安小学校）
	中村光宏（大川市立川口小学校）
	堤 孝信（九州大学大学院生）
	井上由梨菜（佐賀大学学部生）
	原 昂平（佐賀大学学部生）

黒田大貴 (佐賀大学学部生)
釘本 拓弥 (佐賀大学学部生)
小田 寛子 (佐賀大学学部生)
宮川 夏実 (佐賀大学学部生)

賛成側意見発表 3分

論題「日本の小学校は給食に代えてお弁当にするべきである。賛成か反対か」について、賛成の立場で意見を発表します。

論題のようになると、よいことが1つ起こります。

それは、自分に合ったものが食べられるということです。「自分に合ったもの」とは、その人の体調や好みに合った食事のことを意味します。

理由を2つ言います。

1つ目の理由は、家の人は好みや体調を知っているからです。

家の人は私たちが、何が好きで、嫌いなのかをしっかりと知っています。だから、その人に合ったお弁当を作ることができます。例えば、魚が好きな人には魚を、卵料理が好きな人には卵料理を、といったようにおかずをいれてくれます。もちろん、栄養にも気をつけてくれます。嫌いな食べ物や苦手な食べ物でも、料理の仕方を工夫して食べやすくしてくれたりします。また、体調に合わせてお弁当を作することもできます。腹痛などがあって体調が悪い時は、みんなと同じように給食を食べることができないときがあります。お弁当であれば、体調にあった食事をするすることができます。だから、自分に合ったものが食べられるといえます。

2つ目の理由は、お弁当用のおかずがたくさんあるからです。

スーパーやお店ではお弁当用のおかずが数多く売られています。おかずだけでなく、冷凍野菜など、簡単に調理ができる食材もあります。だから、いろいろなおかずを用意することができます。それらの食材は栄養面もしっかり考えて作られています。いろいろなおかずを用意することができるので、好みや体調に合ったお弁当を作ることができます。

以上の2つの理由から、自分に合ったものが食べられるということを主張します。

最後に、発表の内容を確認します。よいことは1つです。それは自分に合ったものが食べられる、です。理由は2つです。1つ目の理由は家の人は好みや体調を知っているからです。2つ目の理由は、お弁当用のおかずがたくさんあるからです。

したがって、論題について賛成します。これで賛成の立場の意見発表を行ないます。

反対側意見発表 3分

論題「日本の小学校は給食に代えてお弁当にするべきである。賛成か反対か」について、反対の立場で意見を発表します。

論題のようにすると、よくないことが1つ起こります。

それは、**家の人の負担が増える**、です。家の人の負担が増えるというのは、お弁当を必ず作らなければならないことで、お弁当の準備をする家の人が大変になるということです。理由を2ついいます。

1つ目の理由は、準備が大変だからです。

お弁当は食事の準備が大変です。お弁当にはご飯や卵料理、魚、野菜など、いろいろなおかずを作らなければなりません。また、栄養のバランスを考えて作らなければならないので、準備をする家の人は大変です。しかも、朝ごはんの準備もしなければなりません。給食があれば、お弁当を作らなくてよいため、家の人の朝の負担がへります。学校がある日のお弁当の準備は家の人にとって、とても負担が大きくなると言えます。

2つ目の理由は、朝の時間は忙しいからです。

朝の時間は登校や会社への出勤準備などで忙しいです。だから、少しでも時間があると助かります。しかし、そのような忙しいなかに準備が大変なお弁当を必ず作らなければならなくなると、どうなるでしょう。ただでさえ忙しい家の人が、もっと忙しくなり、きつい思いをしなければならなくなります。早く終わらせて会社に行かなければならない人もいるかも知れません。あわてて家を出ることになり、交通事故など、危険なことにあう可能性がでてきます。そのようにならないためにも、朝はゆったりとしたほうがいいです。給食は栄養のバランスもしっかり考えられているので、わざわざお弁当にする必要はありません。

以上の理由から、家の人の負担が増えるということを主張します。

最後に発表の内容を確認します。よくないことは1つで、家の人の負担が増える、です。理由は2つです。1つ目の理由は、準備が大変ということ、です。2つ目の理由は、朝の時間は忙しい、です。

したがって、論題について反対します。これで反対の立場の意見発表を終わります。

反対側第一反論 2分

これから反対の立場で第一反論を行ないます。

1つ目の反論です。反論したいことは、「家の人が体調に合ったものを作れるとは限らない」ということです。賛成側は「好みや体調に合ったものを作ることができる」といっていますが、それは正しくありません。

理由を言います。

家の人はお医者さんのように詳しく体のことについてしっていて、それに合った食事を作れるとは限りません。おなかをこわして、あまり調子が良くないというときにどのようなお弁当を作るでしょうか。なるべくお腹に優しいものを用意するでしょうが、それが本当にその体調にあったものかは分かりません。しかも、お弁当は作って時間が経っているので冷えています。給食であれば温かくて、かえってお腹にはよいと思います。

したがって、賛成側の言うことは正しくありません。

2つ目の反論です。反論したいことは「冷凍食品中心のお弁当になる」です。賛成側は「お弁当用のおかずがたくさんある」といっていますが、それは正しくありません。

理由を言います。

確かに、今のスーパーなどのお店ではたくさんの冷凍食品や、途中まで調理が済んだ食材がたくさん売られています。それらは調理のしやすさは確かにあります。しかし、調理のしやすさのため、冷凍食品などをたくさん使用するようになり、しかも、好きなものをたくさん入れてしまえば、栄養のバランスは悪くなります。

以上の理由から、賛成側の意見は正しくありません。

最後に、第一反論の内容を確認します。反論は2つです。1つ目の反論は、「家の人が体調に合ったものを作れるとは限らない」です。2つ目の反論は、「冷凍食品中心のお弁当になる」です。

これで、反対側の第一反論を終わります。

賛成側第一反論 2分

これから賛成の立場で第一反論を行ないます。

1つ目の反論です。反論したいことは、「お弁当の準備はそれほど大変ではない」です。

反対側は「お弁当の準備が大変」、と言っていますが、それは正しいとはいえません。

理由を言います。

お弁当を作るときは前日の夜のおかずを多めに作って、それをお弁当にすることがあります。朝、おかずを作るというわけではないので、忙しいということはありません。前日の夕食で、栄養のバランスを考えて作った食事であれば、それをお弁当にすることができます。例えば、きんぴらごぼうやほうれんそうのしらあえなどの料理は朝の時間で作るにはとても大変です。しかし、前日に作っておけば、それほど大変ではなく、しかも栄養もしっかりととることができます。

だから、賛成側のいうことは正しくありません。

2つ目の反論です。反論したいことは、「自分でできることはやる」です。

反対側は「朝の時間は忙しい」と言っていますが、それも正しくありません。

理由を言います。

お弁当を作ることの負担は減らすことができます。どのようなことかといえば、家の人がおかずを自分でお弁当箱につめたりすることです。すべてを任せるから、大変になる面があります。自分でできることは自分でやれば、負担は減ります。もちろん、帰ってきてからお弁当箱を洗っておくということもあります。そのように協力することができれば、お弁当作りの負担を減らすことができます。

最後に、第一反論の内容を確認します。反論は2つです。1つ目の反論は「お弁当の準備はそれほど大変ではない」です。2つ目の反論は「自分でできることはやる」です。

したがって、反対の立場の意見は正しくありません。

これで賛成側の第一反論を終わります。

反対側第二反論 2分

これから反対の立場で第二反論を行ないます。

1つ目の反論です。反論したいことは、「前の日におかずをつくれないうちもある」です。

賛成側は「お弁当の準備はそれほど大変ではない」、と言っていますが、それは正しいとはいえません。

理由を言います。

夕食を作る場合のことを考えてください。家の人の仕事をしているとしたら、帰りは遅く、夕食を作るのが精いっぱいです。いつでもお弁当のことまで考えることができるでしょうか。お弁当にも使えるおかずを作る、となったら、煮物や和え物など、手のかかる料理も作るようになります。夕食を作るだけでも大変なのに、お弁当のことまで考えたらおうちの人とはとても大変になります。

2つ目の反論です。反論したいことは、「自分でできることをしても大変さは変わらない」です。

賛成側は、「自分でできることをやる」と言っていますが、それは正しいとはいえません。

理由を言います。

たしかに、お弁当におかずをつめたり、お弁当バックに自分で入れることは家の人負担を減らす部分もあることでしょう。しかし、一番大変なのはお弁当を毎日作ること、それ自体なのです。少し手伝ったからといって、お弁当をつくる大変さは変わりません。おうちの人はずっとお弁当のことを考えなければなりません。給食であれば、そのような負担はありません。だから、お弁当にするべきではありません。

最後に反論の内容を確認します。反論は2つです。1つ目の反論は、「前の日におかずをつくれないうちもある」、です。2つ目の反論は、「自分でできることをしても大変さは変わらない」です。

したがって、賛成側の意見は正しくありません。

これで否定側の第二反論を終わります。

賛成側第二反論 2分

これから賛成の立場で第二反論を行ないます。

1つ目の反論を行ないます。反論したいことは、「体調にあったものを食べさせることはできる」です。

反対側は「体調にあったものをつくることはできない」、と言っています。しかし、それは正しくありません。

理由を言います。

そもそも、体調に応じた絶対に正しい食べ物というものはあるのでしょうか。私たちはおよその経験で、おなかを壊したときや熱を出したときは、果物やおかゆなどを食べることを知っています。だから、そのようなことを知っていれば、体調にあったお弁当を作ることができます。野菜中心や果物を入れたり、量を減らしたりするなど、給食にできない細やかな対応ができます。給食よりもお弁当の方が体調にあったものを食べさせられるといえます。

2つ目の反論を行ないます。反論したいことは、「栄養は偏らないということ」です。

反対側は「冷凍食品中心となる」と言っていますが、それも正しいとはいえません。

理由を言います。

確かに、毎日のお弁当となれば冷凍食品に頼らなくなるのは仕方ないと思います。しかし、冷凍食品だからといって栄養に問題があるわけではありません。国産の野菜を使用し、色々な種類の野菜を使って調理したものを冷凍して売っているなど、最近の冷凍食品は栄養のバランスをしっかりと考えています。だから、栄養が偏るということはありません。栄養があるしっかりとしたものを食べることができます。

最後に反論の内容を確認します。反論は2つです。1つ目の反論は、「体調にあったものを食べさせることができる」ということです。2つ目の反論は、「栄養は偏らない」ということです。

したがって、反対側の立場の意見は正しくありません。

これで、賛成側の第二反論を終わります。